

平成 26 年度  
横須賀美術館 活動状況中間報告書

（※ 本報告書の実績は、原則、平成 26 年 9 月末現在の  
数値により作成しております。）

平成 26 年（2014 年）10 月

横須賀美術館



## I 美術を通じた交流を促進する

### ① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

#### 【事業計画】

#### 1 展覧会の実施

「広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」ための事業の要が企画展であることは間違いありません。今年度も、社会教育施設としての役割と交流拠点としての役割を認識し、バランスのとれた企画展を実施します。

#### 【展覧会及び観覧者数】

単位：人

展覧会名	会期	見込み	実績	達成率
海辺のミュージアムでみる日本画展	4/1-4/13	2,500	3,204	128.2%
アール・ヌーヴォーとアール・デコ	4/26-6/29	17,000	15,975	94.0%
キラキラ、ざわざわ、ハラハラ展	7/12-8/31	22,000	36,702	166.8%
小計		41,500	55,881	134.7%
おいしいアート展	9/13-11/3	17,000	—	—
小林孝亘展	11/15-12/23	12,000	—	—
第67回児童生徒造形作品展	1/10-1/26	15,000	—	—
生誕110周年 海老原喜之助展	2/7-3/31	11,000	—	—
所蔵品展だけの期間	上記以外	5,500	2,169	39.4%
計		102,000	58,050	56.9%

#### 2 広報・集客促進事業

展覧会、イベント、ロケーションなど横須賀美術館の魅力をフル活用し、横須賀の交流拠点として集客に取り組んでいきます。そのために、企画展情報だけでなく、美術館の総合的な魅力や外部との連携による地域情報を積極的に発信していきます。

##### (1) 訴求活動による集客促進

- ・パブリシティを期待した新聞、雑誌等への展覧会リリース

⇒ 展覧会毎に発送 1展覧会につき約350件

(学校等施設へのちらしの送付 約1,500件)

⇒ 取り扱い件数

「アール・ヌーヴォー展 25件」

テレビ0件、ラジオ1件、新聞4件、雑誌11件、その他9件

「キラキラ展 51件」

テレビ2件、ラジオ2件、新聞8件、雑誌18件、その他21件

- ・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信
    - ⇒ 広報よこすかに毎月掲載（展覧会やワークショップなどの情報）
    - ⇒ ビタミン（経済部発行）、FM横浜（水道局取材）
  - ・公共交通機関への広告掲出
    - ⇒ 京急線 窓上、駅貼り（展覧会毎に各2回）、
    - 東急東横線 窓上（キラキラ展）
  - ・ホームページ、ツイッターを活用した情報発信、フェイスブック導入検討
    - ⇒ ホームページでの紹介（展覧会毎の作成）
    - ⇒ ツイッターでの紹介（展覧会情報や美術館周辺情報など原則毎日）
    - ⇒ フェイスブックを試行的に運用（キラキラ展）
- (2) イベント開催など企画展以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進
- ・コンサート、マジックワークショップの開催
    - ⇒ コンサート 12月クリスマス（ハンドベル）（予定）
    - 2月市制記念日（合唱団・芸術劇場連携事業）（予定）
    - ⇒ マジックワークショップ 11月実施予定
  - ・年間パスポート、前売券の販売
    - ⇒ 販売枚数と利用回数（9月末現在）

	販売場所	販売枚数	利用回数
パスポート	美術館	260枚	1,104回
	芸術劇場	18枚	
	計	278枚	
前売り券	美術館	45枚	65回
	芸術劇場	39枚	
	計	84枚	

※前売りのうち7枚は「おいしいアート展」(~11/3まで)

⇒ パスポートのスタンプ帳プレゼントは今年度末で終了

(3) 外部連携の推進

①他部局との連携

- ・カレーフェスティバルなどイベント参加による情報発信
  - ⇒ 日産スタジアムへのブース出店（8/9）
  - ⇒ 観音崎フェスタへのブース出店（11/3 予定）
- ・海外からの観光客誘致の検討、仕組みづくり
  - ⇒ 英語版パンフレット制作の予算要求、フェイスブック試行結果の検証

②民間事業者との連携

- ・民間事業者との広報協力、イベント参加による情報発信
  - ⇒ 広報協力（京急ホテル、ソレイユの丘、うらり、すかなごっそ ほか）
  - ⇒ イベント参加（横浜F・マリノス）

⇒ コンサート開催 (ガリバープロジェクト)

- ・福利厚生団体等との割引施設契約の実施

⇒ JAF、JTBベネフィット、リロクラブ、神奈川県厚生福利振興会  
神奈川県市町村職員共済組合 など

③近隣地域との連携

- ・町内清掃、防犯パトロールなど地域活動への参加

⇒ 海岸清掃 (4/26)、和田川再生及び清掃 (9/20)、防犯パトロール (10/11)

- ・観覧ツアーなど美術館活動による交流の実施

⇒ 地元町内会に提案する方向で検討中

(4) 団体集客の推進

- ・旅行会社への団体ツアーの企画提案

⇒ 旅行事業者営業訪問 (5/23)

クラブツーリズム、小田急トラベル、西武グリーンツアー、  
日本移動教室協会、朝日旅行

- ・ウェルカムトークの実施

⇒ 募集型企画旅行での来館は、すべて実施 (7団体33回)

クラブツーリズム、小田急トラベル、京急観光、朝日旅行、  
西武バス、三越伊勢丹、大輪観光

⇒ その他の団体は、要望があった場合に実施

(5) 商業撮影の受入と誘致

- ・ドラマや映画、カタログや雑誌等の商業撮影の受入

⇒ 商業撮影 テレビ1件、PV1件、雑誌15件、  
(9月末現在) その他1件 (宣伝材料)

- ・撮影者側のニーズに対応した誘致の実施

⇒ 撮影者側のニーズに併せた撮影を実施

最も開始が早かった撮影 … 5時から (ファッション誌撮影)

最も終了が遅かった撮影 … 23時まで (ドラマ撮影)

【達成目標】 年間観覧者数 102,000 人

[目標設定の理由]

- ・「横須賀市立美術館基本計画」（平成 12 年 6 月策定）では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を 10 万人と推定し、開館後の実績としても初年度を除き 10 万人前後で推移しています。
- ・そのため当館では、まず観覧者目標を 10 万人以上とし、展覧会内容のバランスを考えながら展覧会を決定しています。
- ・観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近い展覧会の実績などを勘案し算定しています。
- ・ここ数年の観覧者実績は、観覧者見込み数を超えることができなかったため、今年度の達成目標は、観覧者見込み数の 102,000 人とします。

年間観覧者見込みに対する達成状況 (単位：人)

年 度	平成 23 年度	平成 24 年度※	平成 25 年度※
見込み (A)	105,000	100,000	104,000
実績 (B)	108,985	97,535 (123,203)	101,841 (107,761)
達成率 (B/A×100)	103.8%	97.5%	97.9%
(参考) 来館者数実績	224,109	242,229	220,696

※ ()内は、特別企画展の観覧者数を含んだ人数。

年 度	平成 24 年度	平成 25 年度	合 計
L' Anniversary EXHIBITION	23,226	—	23,226
70's バイブレーション	2,442	5,920	8,362
合 計	25,668	5,920	31,588

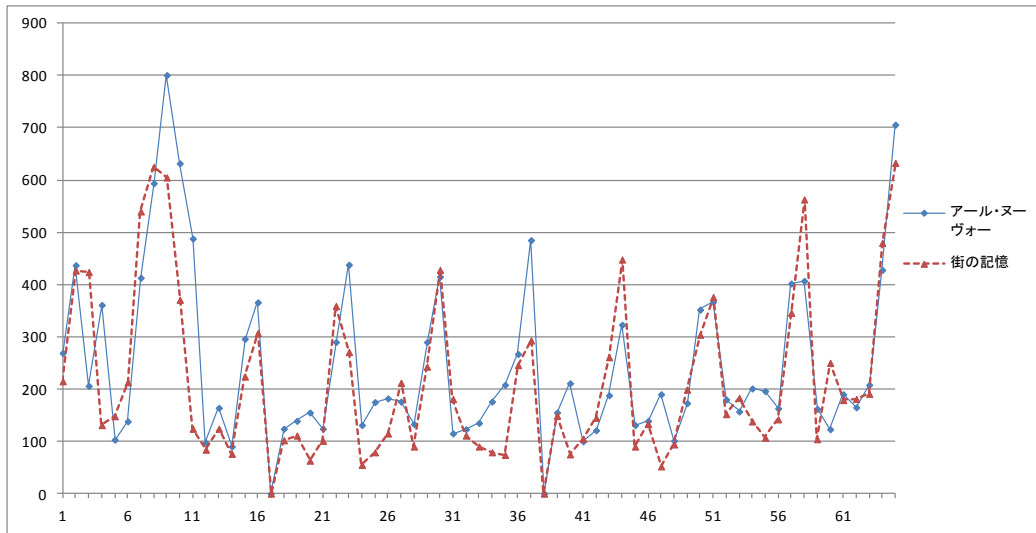
※ 観覧者数・・・観覧券の発券数を根拠とした計算値。

来館者数・・・本館の 2 か所の出入りに設置しているオートカウンターによる計測値。

⇒ 「キラキラ、ざわざわ、ハラハラ」展終了時点での観覧者の実績は、見込み数を大幅に上回っており、目標を達成する可能性は高いと考えています。(見込みとの比較で、プラス 14,381 人、前年同時期との比較で、プラス 9,149 人)

展覧会名	期 間		日 数		企画展+所蔵品展計			
	開始	終了	全日数	実日数	来館者	観覧者	観覧者内訳	
							有料	無料
海辺のミュージアムでみる日本画展	4/1	4/13	13	12	7,406	3,204	2,267	937
アール・ヌーヴォーとアール・デコ	4/26	6/29	65	63	37,441	15,975	12,605	3,370
キラキラ、ざわざわ、ハラハラ展	7/12	8/31	51	50	74,431	36,702	19,459	17,243
企画展計			129	125	119,278	55,881	34,331	21,550
企画展展示替え期間	4/14	4/25	12	12	2,835	888	689	199
	6/30	7/11	12	11	3,368	1,281	1,114	167
展示替え期間計			24	23	6,203	2,169	1,803	366
総 計			153	148	125,481	58,050	36,134	21,916

展覧会別でみると、「アール・ヌーヴォーとアール・デコ」展が見込みを下回ってはいますが差は僅か（達成率94%）であり、その理由も会期後半の週末が天気恵まれなかったためと考えられます。（6月の週末に雨が降ったのは、土曜日2回、日曜日2回で、土日とも雨が降らなかったのは第2週の6/14、15〈会期50、51日目〉のみ。）



＜同時期開催の「アール・ヌーヴォー展」と「街の記憶展」の比較＞

---

**【実施目標】** 広報、パブリシティ活動を通じて、市内外の広い層に美術館の魅力をアピールする。

---

**[目標設定の理由]**

- ・横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市のシティセールスや交流都市の推進という観点からも重要になります。
- ・市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定しました。

1 パブリシティによる取り扱い件数

⇒ 取り扱い件数は、前年同時期の約25%アップとなっており、概ね順調と言えます。

(単位：件)

媒体	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度 (9月末現在)
新聞	48	42	53	25
雑誌	55	52	64	50
Web	21	35	21	25
フリーペーパー	36	35	47	31
書籍	9	7	10	6
会報誌	20	14	5	2
TV	16	16	13	9
ラジオ	7	6	1	6
その他	0	0	1	0
合計	212	207	215	154

2 美術館公式ツイッターのフォロワー数

⇒ フォロワー数が、当初から目標としていた2,000人を突破しました。

「キラキラ、ざわざわ、ハラハラ展」の会期に併せて急増しており、出品作家のリツイートなど情報発信による影響が大きかったと考えられます。

3 募集型企画旅行による観覧数 (9月末現在)

⇒ 募集型企画旅行による観覧者数は、1,114人となりました。秋以降も予約があり概ね順調と言えますが、前年同時期の比較では減少(△780)しています。減少した理由は、昨年度の主力となったツアーの利用回数が減少したためです。今後は、新たなツアー開拓のための活動を実施していく予定です。



4 商業撮影の受け入れ件数

⇒ 件数は、例年以上のペースとなっていますが、使用料は前年度を下回ると思われます。(昨年度、多くの使用料収入があったのは、新車の発表会による使用1回で、1,142,000円の収入があったためです。)

年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度 (9 月末現在)
撮影件数	21 件	22 件	23 件	18 件
使用料	494,000 円	677,500 円	1,970,500 円	752,391 円

②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

【事業計画】

美術館ボランティア活動の推進

ボランティアが美術館の活動を支援することで、自らのやりがいを見出し、市民の美術への親しみを増す一助となるとともに、市民の交流の場となることを目指し、ボランティア活動の推進を図ります。あわせて、ボランティア自身の美術への理解を深めるための育成を行います。

平成26年度より、活動の実態および最近のボランティアからの要望を反映して、活動内容を次の5つに整理しました。

(1) ギャラリートークボランティア 年 60 日程度

所蔵品展のギャラリートークを行います。

\*研修の受講が必要です。

⇒6回の研修を行い、22回のギャラリートークを実施しました。計33日、のべ167名が活動しています。

(2) 小学校鑑賞会ボランティア 年 60 日程度

小学校美術館鑑賞会で来館する小学6年生の受入れ、鑑賞補助をします。

\*研修の受講が必要です。

⇒7回の研修を行い、10校の受入れに参加しました。計16日、のべ87名が活動しています。

(3) みんなのアトリエボランティア 年 12 日程度

障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」の補助をします。

⇒6回実施し、のべ14名が活動しています。

(4) プロジェクトボランティア 年 30～40 日程度

ボランティアイベントの企画・準備・実施をします。

⇒「空想動物園」(5月3日)、「シャボン玉仮面の夕べ」(8月23日)を開催しました。

現在は、12月21日の開催に向けて、準備をしています。計17日、のべ108名が活動しています。

(5) プロジェクト当日ボランティア 年 6 日程度

プロジェクトボランティアが企画したイベントの補助をします。

⇒イベント当日だけでなく、準備作業への参加を含め、計7日、のべ22名が活動しています。

	活動日	募集	研修	任期
(1)	GT:毎週日曜日 研修:日曜日	隔年4～5月	年間12回 (うち新規メンバー向け7回)	1年間(更新有)

(2)	6月～3月の平日 研修:木曜日	毎年4～5月	年間10回	1年間(更新有)
(3)	毎月第3土曜日	随時	なし	1年間(更新有)
(4)	原則として毎月第2・4土曜日、イベント開催日	随時	なし	1年間(更新有)
(5)	年3回程度	イベントごと	なし	イベント当日限り

**【達成目標】 市民ボランティア協働事業への参加者数のべ2,400人**  
**(事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)**

**〔目標設定の理由〕**

- ・参加者数は「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標の1つとなります。
- ・少しずつ新たな担い手を迎え入れ、安定した活動をしています。
- ・ボランティアの活動内容を整理し、選択肢を明示したことにより、これからボランティア活動に参加しようとする方にとって、よりスタートを切りやすい環境が整えられたと考えています。
- ・プロジェクトボランティアの活動では、平日の活動がやや増えています。また近年、イベントへの一般参加者数は、スタッフの人数と会場のキャパシティからみて、安全に楽しむことのできる限界に近付いていると考えられます。
- ・ギャラリートークボランティアの第3期メンバーが研修を終え、本格的な活動を始めています。
- ・年間の活動日数、ボランティアの参加状況、イベント参加者数の動向をふまえ、26年度の目標は、のべ2,400人とします。

(市民ボランティア協働事業へののべ参加者数)

(単位：人)

	プロジェクトボランティアの活動		サポートボランティアの活動		計
	ボランティア	企画イベント参加者	ボランティア	ギャラリートーク参加者	
平成23年度	197	533	434	274	1,438
平成24年度	258	1,116	392	309	2,075
平成25年度	337	1,434	477	326	2,574
平成26年度	130	788	268	161	1,347

\*プロジェクトボランティア

- ・美術館のイメージアップと美術館の利用を高めるため、自らイベントを企画実施するボランティア。
- ・主な活動は、市民等が参加し楽しめるボランティアイベントの開催。
- ・登録者数 29名(平成26年3月末現在)

\*サポートボランティア

- ・美術館が主催する活動に共感し、自身の知的欲求を充足しつつ美術館活動をサポートするボランティア。
- ・主な活動は、ギャラリートークの実施。ボランティアイベントやワークショップ、小学校美術館鑑賞会の補助。
- ・登録者数 50名(平成26年3月末現在)

---

**【実施目標】**

- ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
  - ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。
- 

**[目標設定の理由]**

- ・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。

## Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

---

### ③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

---

#### 【事業計画】

---

#### 1 展覧会事業

国内外の優れた美術品を展示し、感動と思索を得る場を提供します。

- (1) 企画展・・・幅広い関心にこたえるため、特定のテーマによる展示を自主事業として、6回開催を予定しています。夏に子ども向け、秋に多くの人が親しみやすいテーマ展を準備しています。また、すぐれた日本近代美術、現代美術、デザインの展覧会の他、毎年開催している「児童造形作品展」を予定しています。

- i 東京国立近代美術館工芸館巡回展 アール・ヌーヴォーとアール・デコー  
20世紀ヨーロッパのデザインと工芸  
4月26日(土)～6月29日(日)  
・ヨーロッパで生まれたデザイン様式、アール・ヌーヴォーとアール・デコ。  
東京国立近代美術館工芸館のコレクションから、これらの作品約100点をご紹介します。  
⇒東京国立近代美術館との共同主催事業。同館所蔵作品の中からヨーロッパのデザイン作品を中心に構成しました。デザイン分野と、海外作家の展覧会の両方を兼ね備えた展覧会として好評を得ました(観覧者15,975人)。
- ii こどもと美術を楽しみたい! キラキラ、ざわざわ、ハラハラ展  
7月12日(土)～8月31日(日)  
・井上涼、重田佑介、tupera tupera、西村正徳、ミロコマチコらによる参加・体験型の展覧会。近作・新作で構成し、大人もこどもも楽しめます。  
⇒予想を上回る人気を博した展覧会となりました(観覧者36,702人)。要因としては、夏休みに親子で楽しめる親しみやすい展示であったこと、また全国的に人気の高い作家を紹介したことと考えています。
- iii おいしいアート 食と美術の出会い展  
9月13日(土)～11月3日(月・祝)  
・美術の歴史をたどると「食」にまつわる作品が、数多く残されています。西洋美術の伝統的な主題から、日本の現代アートまで、多彩な「食」の表現をご紹介します。

- iv 小林孝亘展—私たちを夢見る夢  
11月15日(土)～12月23日(火・祝)  
・具象絵画に新風を吹き込み、日本の現代美術を牽引してきた画家・小林孝亘の展覧会。各時代の代表作に加え、新作を発表します。また、小林の撮影した写真や、資料もあわせて展示し、制作の秘密に迫ります。
- v 児童生徒造形作品展  
平成27年1月10日(土)～1月26日(月)  
・市立の幼、小、中、高、ろう、養護、すべての学校園の子どもたちが日ごろの授業でつくり上げた平面作品・立体作品など約3,000点を展示します。
- vi 生誕110年 海老原喜之助展—エスプリと情熱  
2月7日(土)～4月5日(日)  
・若くして渡仏し、エコール・ド・パリの次世代画家として注目された海老原喜之助。詩情あふれる作品群や戦後の力強い代表作に加え、近年発見された膨大なデッサンも展示する、首都圏では24年ぶりの大回顧展。

(2) 所蔵品展・谷内六郎《週刊新潮表紙絵》展・・・年4回開催

- i 第1期所蔵品展 4月12日(土)～6月22日(日)  
⇒横須賀出身の作家である広瀬美帆氏の作品を借用し、小特集を行いました。また、所蔵品の中から、まとまって寄贈を受けた伊藤久三郎作品を展示し、お披露目をしました。
- ii 第2期所蔵品展 6月28日(土)～9月21日(日)  
⇒横須賀美術館の代表的な所蔵作家である斎藤義重氏の作品を特集しました。当館所蔵の2点の立体ほか、ドローイングなど約40点を北側ギャラリーおよび展示室8に展示し、その作品世界の広がりを紹介するよう、つとめました。
- iii 第3期所蔵品展 9月27日(土)～12月14日(日)
- iv 第4期所蔵品展 12月20日(土)～平成27年4月19日(日)

2 教育普及事業

知的好奇心の育成と充足の機会を提供します。

(1) 展覧会関連の外部講師による講演会の開催 7回

展覧会を深く理解できるよう、外部講師による講演会を開催します。

・開催：土日 定員：各70名程度(先着制)

⇒5月10日(土)アール・ヌーヴォーとアール・デコ展関連講演会「アール・ヌーヴォー、アール・デコと日本の工芸」を実施し、所蔵館の研究者から、出品作品の背景について詳細な紹介をいただきました。

⇒8月2日(土)キラキラ・ざわざわ・ハラハラ展関連講演会として、出品作

家2人による「トークセッション 井上涼×亀山達矢」を実施しました。注目作家のトークということで、多くの人の関心が集まり、熱気のあるイベントになりました。

(2) ワークショップの開催 6回  
美術への理解を深め、美術館に対して親しみを感じられるよう、多様なテーマによるワークショップを開催します。

- ・ 展覧会に関連したワークショップ 3回
- ・ 大人向けワークショップ 3回
- ・ 開催：土日 定員：各20名程度（事前申込制）

⇒5月18日（日）アール・ヌーヴォーとアール・デコ展関連「パート・ド・ヴェール技法でつくるガラス小物」を実施しました。難易度が高く、時間のかかる技法を用いた制作体験でしたが、講師のサポートが手厚かったため失敗がなく、満足度の高いワークショップになりました。

⇒6月22日（日）オトナ・ワークショップ「トンテンカン！真鍮のピンバッジ作り」を金工作家・小原聖子氏を講師に迎えて実施しました（1日2回）。なじみの薄い素材や技法を体験しながら、美術に対する理解を深めてもらう目的で開催しています。大人向けにこのような趣旨で行われる事業は、他に例がなく、人気の高い事業です。今回は、15歳以上に限定して募集し、3倍を超える応募者がありました。応募の多い内容は、年度を改めて同内容のワークショップを再度行うなど、なるべく多くの人の期待に応えられるよう工夫しています。このワークショップも、昨年度にほぼ同内容で実施したものです。

(3) 映画上映会の開催 2回  
優れた映像美術に触れ、多様な表現に親しむことのできる映画会（シネマパーティー）を開催します。

- ・ 開催：年2回 定員：25名×2回（事前申込制）

(4) 学芸員による企画展ギャラリートーク 10回  
展覧会の趣旨や見どころ、主要作品の解説など展覧会を深く理解していただくことを目的として開催します。

- ・ 企画展毎に1、2回程度 開催：土日（当日自由参加）

⇒アール・ヌーヴォー展会期中に1回（5月17日土曜日）、また、キラキラ・ざわざわ・ハラハラ展会期中には、3回（7月30日水曜日、8月6日水曜日、8月20日水曜日）の親子向けトークを開催しました。展覧会の内容に合わせて実施する条件を変え、関心を持つ人が参加しやすいよう配慮しています。

(5) 学芸員による展覧会観覧の案内・解説 随時  
学生・グループなど、観覧にあわせ展覧会をより楽しく観覧できるよう要望に



応じて、展覧会の案内・解説を行います。

⇒団体観覧の申し込み時に意向を伺い、要望に応じて実施しています(9月末時点で一般団体の案内19件)。また、市民大学との連携による「美術館めぐり」(10月9日)を実施しました。

### 3 美術図書室運営事業

美術図書等約2万6千冊を揃えた図書室を運営し、利用者サービスをはじめ、美術への興味や理解が深まる場を提供します。

#### (1) 所蔵図書の充実

・一般的な美術書に加え、企画展に関連する書籍や子供向けの絵本、貴重な美術雑誌(古書)などを購入し、蔵書の充実を図ります。

⇒書評や他館の蔵書などを参考に選書し、適宜購入しています。

・古書の補修および修復をし、保存に適した状態にします。

⇒昭和前期の雑誌を重点的に、保全をすすめています。

#### (2) 美術に関する情報提供

・来館者が利用できる端末機を設置し、図書室の蔵書を検索できるようデータベースを随時更新します。

⇒受け入れた資料は速やかに登録し、データに反映させています。

・企画展の開催に併せた関連図書の紹介を行います。

⇒チラシを作成し、館内に配置し、ホームページ上にも掲載しています。

---

#### 【達成目標】企画展の満足度(補正值)80%以上

⇒現時点では算出しておりませんが、展覧会ごとでは、「アール・ヌーヴォーとアール・デコ」展が74.1%、「キラキラ・ざわざわ・ハラハラ」展が84.7%となっています。作品評価や心的充足度よりも、観覧料、解説・順路の2つについての評価が低くなっています。

---

#### 【目標設定の理由】

- ・展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。
- ・満足度は来館者へのアンケートによって算出しています。同じ方法の調査を継続的に行っており、目標は25年度実績見込みを上回る80%としました。

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
企画展満足度	80.6%	80.9%	77.2%

---

### 【実施目標】

- ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。
  - ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催する。
- ⇒企画展、所蔵品展、谷内六郎展について、計画どおり開催しています。

- ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。
  - ・所蔵図書資料を充実させる。
- ⇒図書資料の受け入れを積極的に行っております。

- ・多くの方が気軽に利用できるよう、図書室の環境を整える。
- ⇒エントランスと展示室に図書室利用案内や図書資料紹介のチラシを配置し、利用を促しています。毎朝の配架整理と清掃を行い、快適な利用環境を維持しています。

- ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。
- 

### [目標設定の理由]

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、そのための環境を整えていかななくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月から2カ月程度を目安とした年間6回の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展および谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。

#### ④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

---

##### 【事業計画】

---

##### 学校との連携

- 1 「アーティストと出会う会」(中学生、高校生) 2回  
活躍する現役アーティストが、こども時代の夢や取り組みなどを紹介し、中高学生の将来への夢や希望を美術の側面から支援することができるような場を設けます。  
⇒今年、二人のアーティストを同日に招き、対談形式のトークショーを開催しました(9月23日)。学校へのチラシ配布のほか、今年、指導主事の先生にも広報にご協力いただき生徒の参加を呼びかけました。しかし、参加者の大半は一般の社会人で、この事業の難しさを感じました。
- 2 中学生のための美術鑑賞教室の開催 14回  
中学生向けに鑑賞ガイドを用意し、学校外での美術を学ぶ場となる美術鑑賞教室を開催します。  
⇒8月1日~12日に15回開催し、参加者は182名でした。市外からの参加が半数を占めています。また、保護者の割合も全参加者数の3割近くにのぼっています。美術館見学や美術鑑賞が夏休みの宿題テーマとして定着し、そのため、少し離れた近隣の都市から当館に足を運ぶ家族層が増えているものと見られます。
- 3 「美術鑑賞会」の受け入れ(市内全小学校6年生) 46回  
市立の全小学校6年生を対象に、ワークシートを用いて美術館における美術鑑賞教育となる鑑賞会を開催します。  
⇒昨年度と同様、教育指導課との連携により、全市立小学校6年生の鑑賞会を受け入れています。
- 4 出前授業の実施 随時  
学校教育と連携し、美術館職員が学校に出向き、授業の中で美術館を活用した美術教育を実践する出前授業を実施します。  
⇒要望に応じて実施しています。また、出前授業だけで完結することなく、実際に来館して行う鑑賞活動への導入となるようなプログラムを心がけています。今年度は、横浜市内の私立小学校・捜真中学校美術クラブへの出前授業を実施しました。
- 5 職業体験の受け入れ 随時  
子どもたちが美術館での仕事を体験する職業体験の受け入れを行います。  
⇒社会教育機関としての美術館のあり方を地域の中学生によりよく知ってもらう

ため、学芸チームで受け入れを担当しています。今年度は15校の受け入れ予定があり、7月までに4校を受け入れました。なお、今年度は、夏季休暇中の高校生のインターンシップにも2名の参加がありました。

## 6 学芸員実習の受け入れ

随時

⇒8月1日～7日に3名の大学生を受け入れました。従来は4年生以上の学生の参加が一般的でしたが、今年の参加者は全員大学3年生でした。また、今年度は、下記7の教員研修受け入れと学芸員実習の日程を合わせた都合上、従来必ずプログラムに組み込んでいたボランティアイベントのスタッフ業務をなくしました。

## 7 教員のための研修

随時

美術館の所蔵作品やアートカード等の教材を活用した鑑賞教育についての研修を行います。

⇒教育研究所との連携により、鑑賞教育についての教員研修において、学芸員が講師を務めました。

⇒夏季休業中に、約100名の新採教員研修を受け入れました。

⇒夏季休業中に、10年経験者の研修を6名、のべ6日間受け入れました。

なお、自主事業以外の教員研修の受け入れについては、社会教育機関としての美術館のあり方を先生方によりよく知っていただくため、従来より、要望のあった場合に積極的に受け入れを進めてきたものです。

## 子どもたちへの美術館教育

### 1 ワークショップの開催

12回

子どもたちが美術に親しめるようなワークショップ事業を開催します。

・ 展覧会関連ワークショップ、子ども向けワークショップ

開催：5月、10月、定員：40～60名程度（事前申込制）

⇒7月13日（日）キラキラ・ざわざわ・ハラハラ展関連『『光の雨』晴れた日にさすかさをつくろう！』を出品作家・西村正徳氏を講師に迎えて実施しました（1日2回）。親子で美術を楽しむという展覧会趣旨に合わせ、親子や家族でワークショップに参加しやすくするため、対象年齢を小学3年以上としました。

⇒8月17日（日）キラキラ・ざわざわ・ハラハラ展関連「みんなのおおきなうみ」を出品作家・ミロコマチコ氏を講師に迎えて実施しました。親子で美術を楽しむという展覧会趣旨に対応し、ワークショップ参加年齢を3～8歳としましたが、200名を越す応募がありました（定員は40名）。

・ 未就学児ワークショップ

開催：3月 定員：40名程度（事前申込制）

⇒9月6日（土）、7日（日）いずれも14時から、オガサワラマサコ氏を講師に迎え、「ねんどであそぼう2」を開催しました。同内容のワークショップを昨年度実施し

ています。今年度も、各日 20 名の応募に対して約 2 倍の応募者があり、関心の高い分野であることがわかります。

## 2 映画上映会の開催

2 回

気軽に映画を楽しめるよう屋外での映画会を開催します。

開催：夏 定員：なし（当日自由参加）

⇒8 月 30 日（土）、31 日（日）いずれも 19 時から、キノ・イグルーを講師に迎え「もぐらくんとズデネック・ミレル」をはじめ、同一監督の短編アニメ 6 本を上映しました。8 月最後の土日に行うイベントとして定着している事業です。今年は天候に恵まれ、両日合わせて約 760 名の参加者がありました。

## 3 親子ギャラリーツアーの開催

4～5 回

親子での美術鑑賞の楽しみ方を知ってもらうための学芸員によるギャラリーツアーを開催します。

⇒アール・ヌーヴォーとアール・デコ展では、応募がありませんでした。展覧会の内容が、親子向きではないと受け取られたのかもしれませんが。

⇒キラキラ・ざわざわ・ハラハラ展では、展覧会の内容に合わせ、実施回数を 3 回に増やしました。いずれも参加者が多く順調に実施することができ、関心の高い観客層に向けた質の高い普及活動を行うことができました。

## 4 保育園との連携

20 回

市立保育園 10 園と連携し、おもに年中・年長の児童に向けた鑑賞プログラムを実施します。園ごとに、学芸員による「出前プログラム」と来館時の「美術館ツアー」の二つを行います。

⇒平成 24 年度から取り組んでいる事業です。今年度も、すでに 10 園中 3 園が、出前と来館の両プログラムを終了しています。3 年目をむかえ、さまざまな点で、事業が軌道に乗ってきたことを感じます。

---

**【達成目標】 中学生以下の年間観覧者数 22,000 人**

---

### 〔目標設定の理由〕

・子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするためのさまざまな取り組みをしていますが、その成否は、実際の観覧者数に反映されるはずです。

平成 25 年度は、一定の質を保った美術展を年間を通してバランスよく行うことで、観覧者数が前年よりも増加しました。特に、「たいけん！ぼうけん！びじゅつかん！」展を親子向けと位置付け的確なアピールを行ったことや、市立保育園と連携した未

就学児への鑑賞支援活動に積極的に取り組んだことが、中学生以下の観覧者数の増加に効果をあげたと考えられます。今年度も、この方向性を維持していくことを前提に、美術館でなければならない子ども向けの事業を行います。しかし、市全体の14歳以下の人口が減少していることや、平成25年度の実績なども踏まえたうえで、平成26年度の目標を22,000人としました。

(中学生以下の観覧者数)

(単位：人)

	幼児	小学生	中学生	計
平成23年度	4,041	14,442	4,285	22,768
平成24年度	4,314	11,464	3,881	19,659
平成25年度	5,358	11,819	4,119	21,296

#### 【実施目標】

- ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。
- ・学校と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。
- ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。
- ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。
- ・小学校鑑賞会を充実させるため学校との連携を強化する。鑑賞会と連動した教材の共同開発と活用、出前授業の実施などを教員と協力しながら実施する。

#### [目標設定の理由]

美術教育は表現と鑑賞との両輪によってなりたつものですが、多くの学校教育現場では鑑賞の機会に乏しく、表現としての造形教育に偏りがちでした。

近年の学習指導要領では、小・中学校における鑑賞教育がより重視されるようになってきています。平成23年度から実施された小学校の新学習指導要領では、鑑賞教育のために地域の美術館を利用することに加え、学校と美術館との連携を図ることが明示されています。

学校教育ではできない、美術館だからこそできることは何かをじゅうぶん意識しながら、鑑賞教室やワークショップ、作家との連携等充実したプログラムを企画、提供することによって、子どもたちが美術に親しみをもつ機会の拡充につとめていきたいと考えています。

## ⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

---

### 【事業計画】

---

新たな美術品の収集（寄贈、寄託の受け入れ）を行うとともに、所蔵する美術品約5,000点の管理を行います。

#### 1 美術品の収集（購入予算は無、寄贈、寄託の受け入れ）

美術品の収集方針・・・近現代の絵画、版画、彫刻とし、次の基準によります。

- (1) 横須賀・三浦半島にゆかりのある作家の作品
- (2) 横須賀・三浦半島を題材とした作品
- (3) 「海」を描いた作品
- (4) 日本の近現代を概観できる作品
- (5) その他、上記に関連ある国内外の優れた作品

寄贈、寄託の申込のあった作品について、当館の収集方針に合致するかを検討し、作品の来歴や状態を調査します。

収集方針に沿った作品について受入の可否を美術品評価委員会で審議いただき、委員会終了後、収集の承認を受けた作品について受入手続きを行います。

⇒平成26年度の収集作品は美術品評価委員会を経て決定するため、現時点では未確定です。

#### 2 所蔵作品の管理（修復・額装及び作品の貸出）

作品の修復・額装について、作品の状態、展示計画などに即して適切に行います。

作品の貸出について、展覧会内容、会期、巡回先など内容を吟味した上で、適切に手続きを行います。

⇒平成26年4月～9月に行った修復・額装と作品の貸出実績は別紙のとおりです。

#### 3 環境調査の実施 年2回

作品を保管する収蔵庫、保管庫およびその周辺（搬入口、荷受荷解室）について、環境調査を実施します。

⇒5月16日～6月26日、8月19日～10月1日の日程で実施し、概ね良好な結果を得ました。

#### 4 美術品評価委員会の開催 年1回

美術品の収集について、専門的見地から審議いただく美術品評価委員会を開催します。

⇒平成26年度の委員会を12月～平成27年1月に実施の予定です。

---

### 【達成目標】環境調査の実施（年2回）

美術品評価委員会の開催（年1回）

---

### 〔目標設定の理由〕

購入費（基金）が充当されていないため、収集は寄贈に頼っている状況です。

寄贈される作品の質については、専門家による外部委員会である「美術品評価委員会」によってすでに保証されていますが、作品の収集は数量によって評価されるべきではありません。

作品の修復、額装等の処置についても、個々の事例に即して対処しているため、やはり数量的な評価に適していません。

作品の貸出は、依頼に応じて行う性格のものであり、また、作品保護の観点からも数量的な評価をすべきではないと考えます。

したがって、所蔵作品の管理と美術品の収集については達成目標を設けず、年2回の環境調査の実施と、年1回の美術品評価委員会の開催を達成目標とします。

⇒年2回の環境調査をすでに実施し、年1回の美術品評価委員会を例年同様年度末に実施予定であることからおおむね達成見込みです。

---

### 【実施目標】

- ・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。
  - ・適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。
  - ・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。
  - ・所蔵作品がひろく価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。
- 

### 〔目標設定の理由〕

・すぐれた美術作品をひろく収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、保管のための適切な環境整備と、作品そのものの修復および保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響をじゅうぶんに考慮したうえで、可能な範囲で行っています。

⇒年2回の環境調査では、おおむね良好な結果が得られています。

⇒作品の修復・額装は、作業に時間がかかることから所蔵品展での展示や他館貸出予定がある作品を優先し、9月末までに8点を行なっています（作業中を含む）。

⇒9月末までの他館への貸出件数は4件4点と、昨年度同時期の5件73点（うち谷内六郎作品貸出65点あり）に比べやや少ない結果となっていますが、自館企画展「キラキラ、ざわざわ、ハラハラ展」で小川芋銭《春夏秋冬》、「おいしいアート」展で岡鹿之助《魚》、小山田二郎《食卓》展示し、所蔵作品の活用につとめています。



## Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

---

### ⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

---

#### 【事業計画】

---

#### 1 運營業務

受託事業者との連携を図り、利用者にとって心地よいサービスを提供する。

- ・受託事業者との定期的なミーティング（運営事業者連絡会議一月1回、朝礼ー毎日）の実施による情報共有  
⇒計画通りに実施されており、連絡不足による問題は減少しています。
- ・受託事業者からの業務日報や来館者アンケートに基づく課題の把握  
⇒10月より新たに受付スタッフからも日報を提出していただくこととなり、課題や苦情の把握が更に向上すると思われます。
- ・館内巡回による清掃状況及びスタッフ対応等の確認  
⇒担当係長による巡回をほぼ毎日実施しています。
- ・業務仕様書の見直しを行ない、受付展示監視業務受託者への接遇研修の義務化  
⇒10月より新たな事業者と契約をしました。事業者から提出のありました研修計画に接遇研修も含まれており、研修報告をいただくことになっています。
- ・レストランと連携し、企画展ごとにコラボレーションメニューを提供  
⇒「アール・ヌーヴォーとアール・デコ」展メニュー  
『アール・デコ風アンティパストミスト』  
⇒「キラキラ、ざわざわ、ハラハラ展」メニュー  
『キラキラ、ざわざわゼリーのパンナコッタ』  
⇒「おいしいアート」展メニュー  
『ポールセザンヌ風 焼きリンゴと自家製バニラアイス』  
⇒ご好評いただいております、継続していきたいと考えています。
- ・モニタリングによるホスピタリティ調査の実施  
⇒実施方法を検討中です。

#### 2 維持管理業務

施設、設備の維持管理に努め、利用者にとって心地よい空間を提供する。

- ・中長期修繕計画の関係部局オーソライズ推進  
⇒年度内実施予定。
- ・ミュージアムショップの空調設備改修  
⇒空調機1台を増設します。11月休館日設置の工事予定です。
- ・案内サインの点検、見直し  
⇒本館入口の位置をわかりやすくする方策を検討中です。

- ・ AEDの更新、及びAEDボックスの可視化  
⇒現在、他施設と合わせての入札準備中です。
- ・ 屋外への簡易休憩場所設営の試行  
⇒GWから文化の日までの土日祝日、ワークショップ室前にテーブルとチェアを用意し、晴天時はほぼ満席に近い利用状況とご好評いただいておりますので、今後も継続実施していく予定です。  
また、5月に三軒家園地に東屋が設置されましたので、そちらもご案内しております。

#### 【達成目標】

- ・ 館内アメニティ満足度 91%以上  
⇒88.5% (9月末現在)
- ・ スタッフ対応の満足度 80%以上  
⇒79.6% (9月末現在)

#### [目標設定の理由]

- ・ 館内アメニティ満足度については、来館者が気持ちのよい時間を過ごしていることを示す指標であると考えます。21年度から、アンケートのなかに質問事項を加え、「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごすことができた」に対する満足度を指標（総合満足度）としています。
- ・ 館内スタッフとの連携を密にし、課題の把握と対策を図り、これまでの最高を超える91%を目標としました。
- ・ スタッフ対応の満足度については、来館者アンケート「スタッフの対応・案内は適切だった」に対する満足度です。
- ・ 館内スタッフとの定期的な情報交換を行うことで、これまでの最高を超える80%を目標としました。
- ・ スタッフ対応に関する来館者アンケートについては、24年度から今までの5段階評価に加え、よかった・よくなかったところを具体的に記述していただく欄を設け、原因を究明し改善策の検討を行い、満足度の向上に努めています。

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
館内アメニティ満足度	90.4%	87.6%	88.8%
スタッフ対応の満足度	78.5%	79.1%	78.5%

---

#### 【実施目標】

- ・ 建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。
  - ・ 受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。
  - ・ 受託事業者と協力して、付帯施設（レストランおよびミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。
- 

#### 〔目標設定の理由〕

- ・ 横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因の1つは、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物です。しかし、海のそばに立地しているため、強い風雨にさらされることも多く、また塩害によって老朽化の速度が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続していくことが重要です。
- ・ また、スタッフの対応によって、美術館に対する印象は大きく左右されますので、受付・展示監視スタッフは受託事業者ですが、市職員との緊密な連携を図り、一体となって、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。
- ・ 美術館を訪れた際、買い物や食事をすることも、来館者の大きな楽しみです。民間事業者であるレストランおよびミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねていきます。

⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

---

【事業計画】

---

- 1 福祉活動講演会の開催 1回

さわれる彫刻や絵画など、誰もが美術に親しめるさまざまな研究や事例を紹介していく講演会を開催します。

⇒「美術館はみんなのもの！ーオメロ触覚美術館の教育普及活動から」  
日時：8月3日（日）14時～（参加者31名）  
講師：アナリザ・トゥラサッティ（イタリア国立オメロ触覚美術館）  
内容：立体作品の触察による鑑賞だけでなく、詩や音楽を用いた鑑賞など幅広い活動を紹介していただきました。また、館外で行う音楽のワークショップなど、美術以外のジャンルの活動にも言及がありました。参加者にとっても、ジャンルや場所にとらわれない活動は興味深かったようです。
  
- 2 障害者向けワークショップの開催 1回

障害のある人を対象に、美術を楽しめるワークショップを開催します。

⇒11月に美術家の海老塚耕一氏を講師に迎え、触察やフロッタージュによる作品鑑賞のワークショップを予定しています。
  
- 3 障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」の開催 12回

障害のある子どもたちを対象に、身近にある材料で創作を体験するワークショップを開催します。

⇒4月より毎月1回開催し、回によっては定員を大きく上回る申込者があります。継続して実施することで、参加者は講師とより深い関係を築くことができています。見学やボランティアの希望も多く、有意義な活動であると言えます。
  
- 4 パフォーマンスの実施 1回

誰もが様々な美術表現に親しめるよう、美術家によるパフォーマンスを開催します。

⇒11月に、チルドレンミュージックバンド「COINN（コイン）」による音楽をテーマとしたパフォーマンス（ワークショップも同時開催）を予定しています。
  
- 5 託児サービスの実施 16回

1歳～未就学児を対象に、展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向け、託児サービスを実施します。

⇒5月より18回の実施を周知し、うち11回に申込みがありました。利用者は延べ25名となっています。

---

**【達成目標】 福祉関連事業への参加者数のべ 340 人**

---

**〔目標設定の理由〕**

- ・福祉関連の事業は、対象を限定すればするほど参加者数が減る傾向にあります。しかし一方で、対象を限定した事業展開こそ必要な分野でもあります。
- ・上記のような事情により、福祉関連事業は、その年の事業の性格次第で参加者数の増減が大きくなりがちです。そこで、過去2年間の参加者の平均値から算出した340人を平成26年度の目標値としました。

⇒講演会1回、みんなのアトリエ6回、託児11回を実施し、139名が参加しました。

(福祉関連事業への参加者数)

(単位：人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
講演会	22	29	29	31
ワークショップ	22	19	26	
みんなのアトリエ	111	169	214	83
その他	0	55	149	25
計	153	272	418	139

---

**【実施目標】**

- ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。
  - ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。
- 

**〔目標設定の理由〕**

- ・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しむこと、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていきたいと考えています。
- ・設備や什器を新規に導入するよりも、対話鑑賞のような人的対応を充実させることのほうが、福祉の充実につながると考えています。
- ・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かしていきたいと考えています。

## ⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する

### 【事業計画】

- ・エネルギーの消費管理を行い、省エネ対策を推進します。
- ・サービスを低下させず、経営的な視点で委託業務の業務内容の見直しを行う。  
⇒展覧会事業の委託業務の一部（キャプションの製作）を職員で行うことなど、サービスを低下させず、経費削減につながる取り組みを実施していきます。
- ・四半期毎に消費エネルギーの数値等を職員全員に周知し、コスト意識の啓発を図ります。  
⇒4月の課内ミーティングで昨年度の振り返りと今年度の目標の共有、7月の課内ミーティングにて第一四半期の数値を報告。増減の理由を検討し、コスト意識を持ちながら事業を遂行するように確認しました。

**【達成目標】** 電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数、公用車走行距離を前年度以下とする。

### 【目標設定の理由】

- ・美術館の総事業費の約12.9%を占める電気料、水道使用料、下水道使用料は、達成目標を定め管理していく必要があります。
- ・職員が努力した効果を目に見えて感じることができる目標として、引き続き電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数、公用車走行距離を、最終的に前年度実績以下とすることを目標とします。

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度 目標
総電気使用量 (kwh)	2,525,376	2,559,600	2,571,895	2,571,000
電気使用量 (昼間) (kwh)	1,744,038	1,696,578	1,754,173	1,754,000
電気使用量 (夜間) (kwh)	781,338	863,022	817,722	817,000
水道使用量 (m <sup>3</sup> )	4,426	4,227	4,055	4,000
事務用紙使用枚数 (枚)	244,176	216,595	209,241	209,000
公用車走行距離 (km)	4,921	4,756	4,413	4,400

**【実施目標】** 職員全てが費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。

⇒各事業の目的や実施効果を再確認し、事業を進めています。2社以上からの見積合せを実施することで、経費の削減に取り組んでいます。

---

**[目標設定の理由]**

- ・サービスを低下させず経費を削減しスリムな運営体制を目指すためには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。



